

戦争の記憶と記録を語り継ぐ映画祭 2021

うちさいわいちょう

8月5日(木)～8日(日) 東京・千代田区 内幸町ホール

上映作品
映画9本

ヒロシマ・ナガサキ・沖縄戦などをテーマに戦争の記憶と記録を語り継ぐ映画9本を上映



『ひろしま』 ©独立プロ名画保存会



『おかあさんの被爆ピアノ』



©2020『海辺の映画館—キネマの玉手箱』製作委員会/PSC



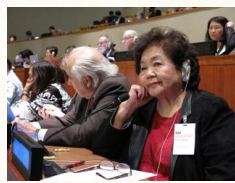
『第五福竜丸』 ©近代映画協会



『ひめゆりの塔』 ©東映



『史実を刻む 語り継ぐ“戦争と性暴力”』



『ヒロシマへの藍いサーロー節子とともに』



『TOMORROW 明日』



『杉原千畝を繋いだ命の物語』

特別
イベント

映画の背景、歴史を深く知ってほしい
ゲスト登壇や偲ぶ会など特別イベント開催

8/5 書籍『原爆の子』出版70年記念

映画『ひろしま』上映後、長田五郎さん講演
～『原爆の子』(長田新・編)出版70年に寄せて～

8/5 第五福竜丸・元乗組員 大石又七さんを偲ぶ会

映画『第五福竜丸』上映後、第五福竜丸展示館
学芸員・市田真理さんによる追悼講演

8/6 ゲスト 香川京子さん

映画『ひめゆりの塔』
上映後、香川京子さんトーク
聞き手:立花珠樹さん(共同通信社)



8/6 戦後76年 高校生と考える “戦争と性暴力”

テレビ朝日『テレメンタリー 史実を刻む
語り継ぐ“戦争と性暴力”』
上映後、松原文枝さん(テレビ朝日ディレクター)トーク
【特別登壇】高校生有志

※当日、旧満州にて女性たちのお世話をした安江菊美さん、
黒川開拓団の遺族会会長とオンラインで繋がります。



8/7 移動演劇桜隊 再結成記念公演 朗読劇『ヒロシマ』

<特別出演>
常盤貴子さん・窪塚俊介さん



8/7 追悼・大林宣彦監督

映画『海辺の映画館—キネマの玉手箱』
上映前、トークショー
「映画監督・大林宣彦が遺したもの」
ゲスト:大林恭子さん・常盤貴子さん
司会:大林千葉英さん

※大林恭子さんは当日のご体調によって欠席の可能性もあります。ご了承ください。



8/8 ゲスト 武藤十夢さん

映画『おかあさんの被爆ピアノ』
上映後、武藤十夢さん(AKB48)トーク
聞き手:御手洗 志帆(主催者)



8/8 命のビザ発給81年 杉原千畝を語る

映画『杉原千畝を繋いだ命の物語』上映後、
川村 秀さん(日露文化センター共同代表)による講演
～命のビザ発給81年 杉原千畝の下で働いて～

戦争の記憶と記録を

作品紹介 あらすじ・解説：若井信二



① 『ひろしま』

1953年公開 [104分 / Blu-ray 上映]
 [監] 関川秀雄 [原] 長田新 [脚] 八木保太郎
 [脚] 中尾駿一郎、浦島進 [音] 伊福部昭
 [美] 平川透徹、江口準次 [出] 月丘夢路、
 山田五十鈴、岡田英次、加藤嘉、原保美、岸
 旗江、利根はる恵

広島で被爆した子供たちの文集『原爆の子』を基に日教組が製作、全国の教員たちのカンパで資金を集め、広島的一般市民8万8千人が工キストで協力、まさに映画という形の市民運動。広島出身の月丘もノー・ギャラで教師役を熱演。原爆投下直後、地獄絵図のような広島を再現、あまりのリアルさに「反米的」と見られるのを恐れ、大手映画会社が配給を拒んだという。東宝争議で自主退社を余儀なくされた関川らによって作られた力作。

8月5日上映後 (12:30~)
 書籍『原爆の子』出版70年記念
 長田五郎さん講演 (約60分)



② 『ヒロシマへの誓い サロー節子とともに』

2020年公開 [82分 / Blu-ray 上映]
 [監] スーザン・ストリッカー [撮] ジェニファー・ハーン [編集] ジャッド・ブレース
 [音] ダラス・クレイン [ナレーター・出] 竹内道 [出] サロー節子

13歳で被爆したサロー節子は、世界各地で核兵器廃絶の活動を続ける。母校・広島女学院の原爆による犠牲者351人の名前を記した布を広げ「顔があり、名前があり、愛されていた一人一人が消えてしまったんです！」と訴える。その言葉の熱量、怒りのエネルギー！被爆二世であるニューヨーク在住の竹内道はサロー節子に出会い、自身の家族の被爆の歴史に目を向け始める。「核兵器禁止条約」採択に貢献したサロー節子の活動の軌跡は、声をあげ続けることの大切さを教えてくれる。

(エンドロールの後、今年1月22日、「核兵器禁止条約」発効当日の映像が追加された)



③ 『第五福竜丸』

1959年公開 [107分 / DVD 上映]
 [監・脚] 新藤兼人 [脚] 八木保太郎 [撮] 植松永吉、武井大 [音] 林光 [美] 丸茂孝 [出] 宇野重吉、乙羽信子、小沢栄太郎、千田是也、永田靖、三島雅夫、永井智雄、清水将夫、殿山泰司

1954年3月1日、水爆実験に遭遇し、死の灰をかぶった漁船「第五福竜丸」。敗戦から9年、原爆の記憶が生々しく残る時期に起こった事件の映画化にあたり、新藤は「記録的にやりたい」と、一切のフィクションを排し、事実をそのまま表現する構成をとった。乗組員へのインタビューはもちろん、病院関係者などに徹底取材を行い、「第五福竜丸」と同形の船も調達し撮影に臨んだ。キネ旬8位。元乗組員・大石又七を演じたのは田中邦衛。本映は二人の追悼企画でもある。

8月5日上映後 (19:00~)
 大石又七さんを偲び
 第五福竜丸展示館 市田真理さん講演 (約40分)



④ 『ひめゆりの塔』

1953年公開 [130分 / 35mmフィルム 上映]
 [監] 今井正 [脚] 水木洋子 [撮] 中尾駿一郎 [音] 古関裕而 [美] 久保一雄 [出] 津島恵子、香川京子、岡田英次、信欣三、藤田進、原保美、加藤嘉、河野秋武、関千恵子、岩崎加根子、利根はる恵

米軍が上陸し、地上戦が行われた沖縄で国の命を賭すまま挺身した女学生たちの悲劇。反戦と平和への希求の思いをこめた今井の執念の演出で、大晦日も元日も撮影を続けたという。当初、大映で撮る予定だったがGHQの圧力でストップがかかり、2年後、ようやく東映で実現し空前のヒットを記録。女学生を演じた香川は、後年生き残ったひめゆり学徒と親交を結び、彼女たちからの呼びかけを綴っている。キネ旬7位。ブルーリボン監督賞。

8月6日上映後 (12:55~)
 女優・香川京子さん &
 立花珠樹さんトーク (約40分)



⑤ 『TOMORROW 明日』

1988年公開 [105分 / 35mmフィルム 上映]
 [監・脚] 黒木和雄 [原] 井上光晴 [脚] 井上正子、竹内統一郎 [撮] 鈴木達夫 [音] 松村禎三 [美] 内藤昭 [出] 桃井かおり、南果歩、仙道敦子、原田芳雄、佐野史郎、黒田アーサー、田中邦衛

1945年8月8日、長崎に暮らす家族とその周囲の人々の一日。ありふれた日常の中で喜び、悲しみ、ささやかな幸せを願って生きている人々。各々に来るはずの明日を奪った一瞬の閃光。終戦時、中学生だった黒木は「子供心に覚えている当時の空気とか風俗とか、人々の気持ちとかの記憶を蘇らせて再現した」と語る、戦争クワイエムの第一作。キネ旬2位、監督賞、主演女優賞。ブルーリボン主演女優賞。イタリア・サレルノ映画祭監督賞。

8月6日上映前 (14:30~)
 共同通信社・編集委員
 立花珠樹さん解説 (約10分)



⑥ 『テレメンタリー 史実を刻む語り継ぐ“戦争と性暴力”』

2019年テレビ朝日系列放送 [48分 / Blu-ray 上映]
 [ディレクター] 松原文枝 [カメラ] 神谷潤、江口聡、花山陽子、宮岡武明、杉山弘城 [編集] 森想来 [ナレーション] 林美沙希

国策により入植しながら、敗戦後、旧満州に置き去りにされた「黒川開拓団」。生き延びるため、ソ連軍に警護と食料支援を受ける見返りに、未婚の女性たちを差し出していた……。団のために犠牲になりながら、日本に帰ってきてからも差別された受難の女性たち。長く隠されてきた凄絶な事実が今、彼女たちの口から語られる。その勇気ある告白に至った「伝えることが生きている者の大きな使命」という思いを、受け継いでいかねばならない。アメリカ国際フィルム・ビデオフェスティバルでドキュメンタリー・歴史部門銀賞。

8月6日上映後 (19:00~)
 テレビ朝日ディレクター松原文枝さん & 高校生トーク
 「高校生と考える“戦争と性暴力”」(約60分)
 会場：旧満州で女性たちのお世話をした安江義美さん、
 黒川開拓団・道新会会長とオンラインで繋がります。



⑦ 『海辺の映画館 - キネマの玉手箱』

2020年公開 [179分 / Blu-ray 上映]
 [監・脚] 大林宣彦 [脚] 内藤忠司、小中和哉 [撮] 三本木久城 [音] 山下康介 [美] 竹内公一 [出] 厚木拓郎、細山田隆人、細田善彦、吉田玲、常盤貴子、成海璃子、山崎紘菜、窪塚俊介

尾道の海辺にある映画館「瀬戸内キネマ」の閉館記念オールナイトは「戦争映画特集」。観客席からスクリーンに入り込んだ三人の若者が戊辰戦争から日中戦争、沖繩戦、そしてヒロシマと、時空を飛び越え戦争の歴史を体験する。縦横無尽、自由奔放な映像表現、溢れ出る破壊愛。それは、反戦、平和への願いを語り継ぐとともに、「映画」や文化、芸術には未来を創り出す力があるのだという若い世代へのメッセージである。キネ旬2位。

8月7日上映前 (15:45~)
 「追悼・大林宣彦監督」
 大林恭子さん (母) & 常盤貴子さんトーク
 司会：大林千栄菜さん (約45分)



⑩ 『おかあさんの被爆ピアノ』

2020年公開 [113分 / Blu-ray 上映]
 [監・脚] 五藤利弘 [撮] 藍河兼一 [実景撮影] 高間賢治 [音・出] 谷川賢作 [美] 都合京子 [出] 佐野史郎、武藤十夢、森口瑠子、宮川一朗太、大桃美代子、南高あさ子、ボセイドン・石川、鎌滝えり

大学生の菜葉子は、娘を原爆から遠ざけたいた母が被爆ピアノを寄贈したことを知り、「被爆ピアノコンサート」に行く。菜葉子は、可愛がってくれた祖母のこと、原爆のことについて、もっと知りたいと思うようになり、成長していく。菜葉子が出会う矢川光則は実在の人物。被爆ピアノの修復をし、自らトラックを運転、20年間で国内外2500以上の演奏会会場に送り届ける活動を続け、「その音色から何かを感じてってもらいたい」と語っている。第38回 日本映画復興賞奨励賞。

8月8日上映後 (12:40~)
 武藤十夢さんトーク (約30分)
 聞き手：御手洗志帆 (主催者)



⑪ 『杉原千蔵を繋いだ命の物語』

ユダヤ人と日本人 過去と未来
 2017年 [25分 / DVD 上映] [監] 梶岡潤一
 [音] 福岡保彦 & Luna Luna (小野山千鶴・磯村由紀子)

第二次世界大戦中、リトアニア副領事・杉原千蔵が発給したビザでナチスから逃れた多くのユダヤ人。彼らを日本に輸送した「天草丸」、そして命をとりとめた彼らのその後。ユダヤ人女性の一枚の写真から見てくる埋もれた歴史がライター・北山明によって明らかになれる。善意と人道的行動で生き延びた命が現在に繋がっていることが感動を呼ぶ。入管問題など、国際社会の中の日本のあり方が問われる今こそ、観てほしいドキュメンタリー。

8月8日上映後 (14:45~)
 日露文化センター共同代表・川村秀さん講演 (約90分)



生涯「原爆」に拘り続けた映画監督・新藤兼人が「原爆が投下されたとき、一秒、二秒、三秒の間は何がおこったか、一人一人がどんな風に殺されたかを描きたい」という意図で書いた『ヒロシマ』。撮影を熱望しながらも叶わなかった未完のシナリオを基に、朗読劇『ヒロシマ』が新たに上演される。新藤の『さくら隊散る』(1988)でも描かれ、大林宣彦監督の『海辺の映画館 - キネマの玉手箱』でも重要なモチーフとなった「隊隊」。原爆により9人の劇団員が全滅した受難の瞬間を、再結成された劇団「移動演劇隊」が演じる。朗読劇には、映画『海辺の映画館 - キネマの玉手箱』に出演し、隊隊の園井恵子を演じた常盤貴子、丸山定夫を演じた窪塚俊介が、映画と同じ役で特別出演する。

⑧ 移動演劇隊 再結成記念公演 朗読劇『ヒロシマ』

2021年 [朗読劇 約40分]
 [原作] 新藤兼人 [台本構成] 丸仲恵三
 [演出] 青田いずみ [美術/衣裳] 佐々波 雅子
 [照明] 関定己 [音響] 坂口 野花
 [スライド編集] 丸仲恵三/平田みやび
 [出演] 移動演劇隊 (五十名) 小磯一斉 (タイムリーオフィス) / 椎名友樹 / 馬場太史 (劇団俳優座) / 平田みやび / 増田あかね (劇団俳優座) / 三輪桂古
 [特別出演] 窪塚俊介 / 常盤貴子



新たに再結成された「移動演劇隊」読み稽古の様子



8月7日『ヒロシマ』上演後
 出演者より一言メッセージあり

語り継ぐ映画祭 2021

登壇ゲストプロフィール



おさだ ごろう
長田 五郎さん
(横浜市立大学名誉教授)

8月5日 ①映画『ひろしま』
上映後の講演ゲスト

大正15年、広島市生まれ。94歳。1951年10月2日刊行の広島の少年少女たちの手記『原爆の子』の編者である長田 新（おさだ・あらた）の四男。父親の意思を継ぎ、世界に『原爆の子』を伝える活動に従事し、これまで16か国語で翻訳されている。
1945年、当時、東京商科大学（現・一橋大学）の予科2年の学生であったが、8月3日に帰省。広島の実家（爆心地から1.6kmの平野町）で被爆。重傷を負った父・長田新の救命にあたり、現在、全株保存継承が求められている広島の旧陸軍被服支廠の倉庫にあった救護所まで運んだ。横浜市立名誉教授。明星大学人文学部経済学科教授を平成9年に退任。



かがわ きょうこ
香川 京子さん
(女優)

8月6日 ④映画『ひめゆりの塔』
上映後のトークゲスト

1950年、『窓から飛び出せ』で公式デビュー。今井正監督『ひめゆりの塔』、成瀬巳喜男監督『おかあさん』、小津安二郎監督『東京物語』、溝口健二監督『近松物語』、黒澤明監督『天国と地獄』『赤ひげ』など錚々たる監督の名作に出演。
1990年、『式部物語』で山路ふみ子賞、キネマ旬報助演女優賞。1993年、『まあだだよ』で毎日映画コンクール田中絹代賞、日本アカデミー最優秀助演女優賞などを受賞。1998年秋、紫綬褒章、2004年秋、旭日小綬章を受賞。2011年、第24回東京国際映画祭の会場で日本人初となるFIAF賞を受賞。2018年、第41回日本アカデミー賞で会長功労賞を受賞。著書『ひめゆりたちの祈り』など。



たちばな たまき
立花 珠樹さん
(共同通信社編集委員)

8月5日 ④映画『ひめゆりの塔』上映後トーク聞き手
8月6日 ⑤映画『TOMORROW明日』上映前の解説

1949年、北九州市生まれ。一橋大学卒業。74年に共同通信社に入社。1990年代から文化部記者として映画取材する。監督・新藤兼人をはじめ、香川京子、三國連太郎、若下志麻、若尾文子、吉永小百合など映画人へのロングインタビューや、名画の楽しい見方を紹介する映画コラムなどを執筆。著書には『凛たる人生 映画女優 香川京子』『若尾文子“宿命の女”なればこそ』（ワイス出版）、『新藤兼人私の十本』『若下志麻という人生』（共同通信社）吉永小百合との共著『私が愛した映画たち』（集英社新書）など。2020年から東京新聞夕刊など各地の新聞にて『再発見！日本映画』を毎週連載。



まつばら ふみえ
松原 文枝さん
(テレビ朝日ディレクター)

8月6日 ⑥テレビ朝日『レメンタリー-史実を刻む』
上映後のトークゲスト

テレビ朝日政治部・経済部記者を経て『ニュースステーション』『報道ステーション』ディレクター。2012年から同番組チーフプロデューサーを務める。2015年に経済部長。2019年7月からビジネスプロデュース局イベント戦略担当部長。
歴史、経済、SDGsに関するシンポジウムとBS番組を手がける。『ワイマール憲法の教訓』（2016年3月放送）でギャラクシー賞大賞、日本ジャーナリスト会議賞受賞。『史実を刻む 語り継ぐ“戦争と性暴力”』（2019年11月放送）でアメリカ国際フィルム・ビデオフェスティバル銀賞を受賞。2020年3月放送ウーマン賞。専修大学特任教授。



むとう とむ
武藤 十夢さん
(AKB48・天気予報士)

8月8日 ⑩映画『おかあさんの被爆ピアノ』
上映後のトークゲスト

1994年、東京都生まれ。2011年、16歳でAKB48第12期研究生オーディションに合格。成城学園中学校高等学校卒業。芸能活動と学業を両立しながら進学し、成城大学経済学部卒業。2020年、成城大学大学院経済学研究科を修了。AKB48のチームKメンバーとして活躍中。2019年4月、8度目の挑戦で気象予報士に合格。AbemaTV『AbemaMorning』で毎週金曜日の天気コーナーを担当。

2020年公開の映画『おかあさんの被爆ピアノ』では、俳優・佐野史郎と共にダブル主演を務めた。



かわむら さとる
川村 秀さん
(日露文化センター共同代表)

8月8日 ⑪映画『杉原千敏を繋いだ命の物語』
上映後の講演ゲスト

1933年、静岡県沼津市生まれ。88歳。早稲田大学露文科卒業。商社勤務で通算27年間、モスクワに駐在。1992年、ロシア科学アカデミー-東洋学研究所と共同で日露文化センターを設立。これまで司馬遼太郎、吉村昭、石橋湛山、渋沢栄一などの著作や長田新・編『原爆の子』など7冊のロシア語版を出版。

日露間の学術・文化交流やシベリア抑留問題に取り組むと共に、晩年の杉原千敏を直接知る数少ない歴史の証人として、その業績を若い世代に伝えている。ロック歌手の川村カオリ（2009年没）、俳優の川村忠の父。芥川賞作家・川村晃の弟。

8月5日 大石 又七さんを偲ぶ会

③映画『第五福竜丸』上映後講演



今年3月7日、87歳で亡くなられた「第五福竜丸」の元乗組員の大石又七さん。アメリカの水爆実験によりビキニ環礁で被爆、晩年まで核兵器や被ばくの恐ろしさを訴え続けてきました。大石さんの功績や思い出を、「第五福竜丸展示館」の学芸員・市田真理さんにご講演いただきます。

映画『第五福竜丸』で、大石又七さん役を演じたのは、俳優・田中邦衛さん。本催しでは、今年3月24日に88歳で亡くなられた田中邦衛さんへの追悼も込めて実施します。

8月7日 追悼・大林 宣彦監督

⑨映画『海辺の映画館-キネマの玉手箱』上映前トーク



「戦争の愚かさ・悲惨さを若い人たちに伝えていかなければ」「映画で未来の平和をつくりたい」

がんと闘いながらも、最後まで平和への願いを発信し続けた大林宣彦監督。本催しでは、遺作『海辺の映画館-キネマの玉手箱』上映前に、監督が遺した平和へのメッセージ、映画が持つ力など監督を偲ぶトークショーを行います。

ゲストは、大林作品のプロデューサーで妻の大林恭子さん※と、女優の常盤貴子さん（大林作品『野のななのか』『花道/HANAGATAMI』『海辺の映画館-キネマの玉手箱』に出演）。司会は大林夫妻の映画への情熱を見つけてきた娘の大林千菜（ちくみ）さんに務めていただきます。

※大林恭子さんは当日のご体調によって欠席の可能性もあります。ご了承ください。

「戦争の記憶と記録を語り継ぐ映画祭2021」

本映画祭は、10代～40代中心のボランティアスタッフと、活動に賛同して下さる支援者の皆様に支えられ、去年のコロナ禍をなんとか乗り越え、開催に至ることができました。

右記、2020年の映画祭にご支援くださいました方々に心より御礼申し上げます。皆様のご支援がなければ、今年の映画祭開催は不可能でした。より一層、平和への願いを込めた催しにできるよう、精一杯努めて参ります。

主催者代表 御手洗 志帆

＜クラウドファンディングMotionGallery寄付＞
Ogichan 様、田中久登様、Tadashi Inoue 様、ayu sherry 様、財前利治 様、福富志穂 様、ハロディー様、坂下恵様、昌妻典起 様、santa 様、とおる 様、Shinobu Nishiyama 様、白井京子 様、pyonmama 様、みらいを紡ぐボランティア同 様、Yokosuka "Rainy" Johnny 様、ahab13 様、塚本朱穂 様、くる様、立花健夫 様、yoshiko 様、岡山善己 様、さだちろく海様、中野文彦 様、バツコ様、ヤス様、さき様、五十嵐白 様、浜野様、hidamari 様、こけも様、ほりうちとのぶ 様、ざくろちゃん 様、竹内良男 様、たきこ様、ひとしむす 様、Satoru Aonuma 様、Twngnski 様、Eiko Shiraiishi 様、高ちん 様、梅楽 様

＜2020スペシャルサポーター-銀行振込寄付＞
尾島弘明 様、西東京シネマ倶楽部 様、五十嵐義正 様、大竹由紀子 様、貞原伊佐夫 様、岡田秀樹 様、吉田郁子 様、御手洗毅 様、大内達人 様、タマワキキフ 様、ヨシダシゲキ 様、秋田あさ 様、森田さやか 様、伊藤朝明 様、プリンシプルK 様、酒井博樹 様、チームプリンシプルK 様、酒田研昌 様、多田あさこ 様、山口明日香 様、佐藤あゆみ 様、金倉美佐恵 様、下菜いさき 様、東卓夫 様、田中泰忠 様

＜直接のカンパ＞
原田篤行 様、水野誠一 様、黒田孔子 様、五十嵐義正 様、小島英人 様、前田基行 様、上松浩夫 様、金倉忠子 様、須田俊子 様、近野志夫 様、肥塚 様のむち 様、吉永小百合 様

「戦争の記憶と記録を語り継ぐ映画祭」2022 サポーター・スポンサー・共催者募集

一般社団法人 昭和 cultura アーカイブスは、ご協賛くださる個人・企業・共催者の方を募集しています。「戦争の記憶と記録を語り継ぐ映画祭」は、前身である「新藤兼人平和映画祭」から今年で10年目を迎えます。毎年、映画祭経費やチラシ印刷費、郵送料など活動を持続するための資金が不足しています。特に昨年から続く新型コロナウイルスの影響で映画祭の持統は、非常に厳しい状況にあります。今後の活動継続のため、ぜひご支援、ご協力をお願い申し上げます。ご協賛くださる方には、来年度（2022年）の映画祭の招待券1口1枚分を送付。来年度のチラシ、HPIにお名前を掲載いたします。

＜協賛金＞ 1口 5000円 ＜協賛方法＞ 銀行振込 ◆銀行名 ゆうちょ銀行・一三八支店 ◆口座番号 普通 01370702 ◆口座名義 ㈲ヨウワカンアーカイブス



8月5日 (木)	8月6日 (金)	8月7日 (土)	8月8日 (日)
① 10:15～開場 10:30～上映 12:30～講演 13:30終了予定 『原爆の子』出版70年記念 映画『ひろしま』 上映後、長田五郎さん講演 前売り 1500円 当日 1800円※ [全て自由席]	④ 10:15～開場 10:30～上映 12:55～トーク 13:35終了予定 映画『ひめゆりの塔』 上映後、香川京子さんトーク 聞き手:立花珠樹さん 前売り 1500円 当日 1800円※ 予約はイープラスのみ [全て指定席]	⑦ 09:45～開場 10:00～上映 13:00終了予定 祝・日本映画平和賞 映画『海辺の映画館 ーキネマの玉手箱』 前売り 1500円 当日 1800円※ [全て自由席]	⑩ 10:15 開場 10:30～上映 12:40～トーク 13:10終了予定 祝・日本映画復興奨励賞 映画『おかあさんの被爆ピアノ』 上映後、武藤十夢さんトーク 前売り 1500円 当日 1800円※ 予約はイープラスのみ [全て指定席]
② 14:30～開場 14:45～上映 16:07 終了予定 核兵器禁止条約発効記念 映画『ヒロシマへの誓い サーロー節子とともに』 前売り 1500円 当日 1800円※ [全て自由席]	⑤ 14:15～開場 14:30～解説 14:40～上映 16:25終了予定 映画『TOMORROW 明日』 上映前、立花珠樹さん解説 前売り 1500円 当日 1800円※ [全て自由席]	⑧ 13:30～開場 14:00～上演 15:00終了予定 移動演劇桜隊 再結成記念公演 朗読劇『ヒロシマ』 [特別出演] 常盤貴子さん、窪塚俊介さん 予約 3500円 当日券なし 予約はイープラスのみ [全て指定席]	⑪ 14:00～開場 14:15～上映 14:45～講演 16:15 終了予定 命のビザ発給81年 映画『杉原千畝を 繋いだ命の物語』 上映後、川村 秀さん講演 前売り 1500円 当日 1800円※ [全て自由席]
③ 16:45～開場 17:00～上映 19:00～講演 19:40終了予定 大石又七さんを偲ぶ会 映画『第五福竜丸』 上映後、第五福竜丸展示館 学芸員・市田真理さん講演 前売り 1500円 当日 1800円※ [全て自由席]	⑥ 17:45～開場 18:00～上映 19:00～トーク 20:00終了予定 テレビ朝日テレメンタリー 『史実を刻む 語り継ぐ“戦争と性暴力”』 上映後、松原文枝さん・高校生トーク 〔黒川開拓団〕関係者オンライン参加 前売り 1500円 当日 1800円※ [全て自由席]	⑨ 15:30 開場 15:45～トーク 16:40 上映 19:40 終了予定 追悼・大林宣彦監督 映画『海辺の映画館 ーキネマの玉手箱』 上映前トーク、大林恭子さん(※予定)、 常盤貴子さん (司会:大林千景さん) 前売り 1500円 当日1800円※ 予約はイープラスのみ [全て指定席]	[イープラス予約について] ④⑧⑨⑩ 予約はe+ (イープラス) サイトにて、 『戦争の記憶と記録を語り継ぐ映画祭 2021』で検索 [イープラス以外の予約について] 映画祭詳細 予約フォーム QRコード

※当日券は前売り席がなくなり次第終了/ /①～③,⑤～⑦,⑩は自由席/1回入れ替え制/新型コロナ対策で**座席は半数に制限**します。

④・⑧・⑨・⑩のみ予約はイープラスサイトにて販売 / ⑨大林恭子さんご登壇は当日のご体調によっては欠席の可能性もあります。ご了承ください。

予約方法

イープラス以外の予約(前売り)は映画祭ホームページ・予約フォーム/メールにて承ります。

映画祭HP 予約フォーム:<https://showabunka.org/> (検索 昭和 cultura アーカイブス)

メール:showa.archives@gmail.com

上記いずれかに1) 氏名 2) 人数 3) 鑑賞希望番号(複数可) 4) 連絡先(メールor電話番号)をご明記ください。
料金は当日受付払い/入場は予約順/ゲスト回は即完売する可能性があります。ご予約はお早めをお願いします。

万が一、緊急事態宣言発令により会場が使用禁止となった場合、映画祭は延期あるいは中止になります。

うちさいわいちょう

東京・千代田区立 内幸町ホール

〒100-0011 東京都千代田区内幸町1-5-1 地下1階



会場アクセス

【都営三田線】内幸町A5番出口から後方の「内幸町交差点」信号を渡らず右折し、「国会通り」の右側にホール入口。徒歩5分。

【東京メトロ銀座線】【都営浅草線】新橋駅7番出口に向かい内幸町地下通路(E内幸町 日比谷)より徒歩5分。

【JR】新橋駅(日比谷口)より第一ホテル東京方面広場より階段を下る。徒歩5分。



主催：一般社団法人 昭和 cultura アーカイブス 「戦争の記憶と記録を語り継ぐ映画祭」 実行委員会メンバー (五十音順)
井下拓也・太田真理子・岡部 和・北原義幸・肥塚 葉・佐藤喜則・佐野 彩・柴田恵津子・清水光太郎・御手洗志帆